



**「スベトラーナ・アレクシェーヴィチ
03年講演会・資料集」**

日本国内7カ所で行われたアレクシェービッチさん講演会の共通資料集。(A4判、32頁)

JCF事務局に在庫があります。ご希望の方には実費(送料分)でお届けしますので、事務局までお問い合わせ下さい。

スベトラーナ・アレクシェービッチさんの著書

「アフガン帰還兵の証言」

(三浦みどり訳、日本経済新聞社) 1748円+税

ロシア軍兵士が体験した絶望の戦場。遺族も生還者も悪夢以上の後遺症をいまも病む。はじめて明かされた赤裸々な証言は、進行中の事態への予言ともいえる。(澤地久枝)

「ボタン穴から見た戦争」

(三浦みどり訳、群像社) 2000円+税

オーバーのボタン穴から見た爆弾の記憶。ドイツ軍の侵略を真っ先に受けた第二次大戦の惨劇の地白ロシア(ベラルーシ)で子供時代をおくった101人の証言。NHKスペシャル「ロシア・小さき人々の記録」で紹介された著者のドキュメンタリー。

「チェルノブイリの祈り」

(松本妙子訳、岩波書店) 2000円+税

1986年の大惨事から十数年間、人々が黙していたことは何か。幾多の文献や映像が脱落していたチェルノブイリの事実とは何か。巨大大事故に遭遇した被災者達の衝撃、悲しみ、思索の過程を鮮やかに描き出した珠玉のインタビュー集。人間のまなざしがとらえた戦慄、人間の内面にあふれる悲哀、チェルノブイリの記憶。



神田香織さんホームページ

<http://www.ppn.co.jp/kannda/>



「神田香織張り扇日記」より

「チェルノブイリの祈り」の原作者スベトラーナ・アレクシェービッチさんが来日中できょうは松本で講演。私も講談で参加、アレクシェービッチさんに講談を聞いてもらえるのだ。「あがたの森文化会館講堂」は旧制松本高校の講堂そのままでは昔のままのシャンデリアも吊されてありおごそかな雰囲気。外は公園になっていて色づき始めた木々のそばで園児達

が走り回っている。チェルノブイリ支援活動に加わっている地元の高校生達が書籍の販売、司会、会場の準備など大勢で協力してくれた。控室でアレクシェービッチさんに挨拶する。瞬間、暖かい人柄が伝わってくる。「オ～、キモノ～」と私の衣装ににこにこ。日本チェルノブイリ連帯基金(JCF)の理事長、鎌田實氏とのトークを客席で聞かせてもらった。前日、北海道泊原発を見た彼女は「海の側できれいだった」とし「原発をたてる場所は美しい。教会を建てるようなところを選んでる」と印象的な表現で引きつける。福島もそう、ためいきが出るほどきれいな海岸線に建っているのだ。独裁政権のベラルーシでは彼女のこの本は「有害な本」として出版されないと言う。政府が「国民を救えない」とどうするか。“ごまかし”をする。汚染地域に住んでいる人のところに大統領が行き、「もう、大丈夫」と農村にトラクターを送っているそうだ。「放射能に汚染されている森やリンゴは見た目は変わらないが別世界。自然が牙をむきだしている」そのリンゴを食べることは汚染されることに他ならない。通訳の竹内さんはボキャブラリーの豊かな方で、適切に即座に通訳してくれた。アレクシェービッチさんの独特の表現は、詩的であり、哲学があり、情感を感じさせる。「チェルノブイリ」から・・・「9・11」から・・・「戦争」から・・・、人類の未来をとらえようとするその視点は愛情に満ちている。だから私は語りたいたいのだ！講談終了後、アレクシェービッチさんも舞台上がり「自分が本で伝えたいことを、講談で語ってくれた」と激励してくださった。原作者と満杯のお客さんの前で語らせてもらったこの日は、生涯忘れることはない。(神田さんのホームページより)